ニッポン臨終図巻

ドクター和の

長尾和宏（ながお・かずひろ） 医学博士。公益財団法人日本尊厳死協会副理事長としてリビング・ウイルの啓発を行う。映画『痛くない死に方』『けったいな町医者』をはじめ出版や配信などさまざまなメディアで長年の町医者経験を活かした医療情報を発信する傍ら、ときどき音楽ライブも。

㉔ 福岡県飯塚市長 片峯誠

がん転移後も職務全う

麻雀好きの方ならば記憶に残っている出来事かもしれません。2016年12月、福岡県飯塚市の当時現職だった市長と副市長が平日の日中に仕事をサボって市内の雀荘で繰り返し賭け麻雀をしていたことが明らかになりました。当然市民から抗議が殺到し辞職。

その後の選挙で当選したのが、無所属新人の片峯誠市長。辞職した2人と賭け麻雀をした過去を認めた上で、「麻雀は一生しないと決めている。私たちは公務員であるという意識を示したい」と宣言。なんて素直な人なんだろうと記憶に残っていました。

市民からの人気も高かったようです。市長職は想像以上に激務だと語りながら懸命に仕事をされ現在2期目でしたが、9月25日に同市内の病院で死去されました。享年67。死因は肺がんとの発表です。

片峯氏は今年の2月に「進展型小細胞肺がん」のステージ4と診断を受けて治療入院。その約1カ月後に退院。3月22日には市役所内で記者会見を行っています。

「抗がん剤治療がうまくいった。治療は続けるが、現時点では引退するつもりはない」

最長6月までは抗がん剤治療を続けることも明かし「病気と闘って頑張るので、一緒に元気な飯塚をつくりましょう」と決意を述べられました。片峯氏が診断された小細胞肺がんは、悪性度が高く進行がとても早いことが特徴です。進展型とは、外科手術や放射線によって取り除ける範囲を超えて転移が広がっていることを指します。この時点で、キッパリ仕事を辞めてもよかったはずです。しかし、投げ出すことはありませんでした。

この7月に体調の異変を訴え、定期検診を早めて受診。脳への転移が見つかり、8月4日に緊急手術。術後、意識の戻らない状態が続いたため、ご家族から「治療を最優先にさせてほしい」と申し出があり、同月16日からは副市長が職務を代理していたとのこと。

ネット記事などには、「手術後意識戻らず」という見出しが躍ったため、「手術が失敗したの？」と勘繰った人もいるかもしれません。

しかし、失敗したわけではないはず。がん転移巣に対し、完治を目指さず、少しでもQOLを高めるために緩和的外科手術を行う場合があります。進行したがんが脳に転移をした場合にもこうした手術は行われます。術後に意識が戻らない可能性があることもご本人とご家族は医師から説明を受けていたはずです。見方を変えれば、術後に痛みを感じることなく、眠るように旅立つことができたのでは。

熱血中学教師から市長職になったという経歴の持ち主でした。眠りの中でも尚、お仕事をされているかもしれません。